

文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2021年度 連携型共同研究 成果報告書

研究課題名	地域連携食育ネットワークによる都市部小中学生の主体的な健康行動を促す食育プログラムの実施と評価
研究代表者	早見 直美（大阪市立大学 生活科学研究科 講師）
共同研究者	福村 智恵（大阪市立大学 生活科学研究科 准教授） 西川 章江（大阪教育大学 教育学研究科 准教授） 横山 久代（大阪市立大学 都市健康・スポーツ研究センター 准教授） 鶴川 重和（大阪市立大学 生活科学研究科 准教授）

研究成果

本研究は都市部在住の小中学生において主体的な健康行動を促すことをねらいとし、新たな視点として1)カルシウム摂取、および2)小中連携を取り入れ、昨年度までの食育プログラムの拡充・発展を目的とした。

1. 中学生を対象とした食育プログラム（朝食習慣・カルシウム摂取）の実践と評価：これまでに開発した中学生用朝食習慣改善プログラムは、地域全体の取組として継続して大阪市住吉区内全域で実施した。本取組は、夏休み中に朝食づくりの課題を行い、朝食の重要性を理解し、自立に向けて子どもたちが主体的に健康的な朝食行動をとれるよう実施した。朝食づくりの課題については、各中学校から家庭で参考になる朝食を集めたレシピ集を成果物として作成し、学校等関係各所へ配布した。カルシウム摂取の課題については、中学校2校において骨密度測定とカルシウム摂取や生活習慣に関する調査を実施し、測定結果の返却とともに講話を行い、成長期において骨密度を高めることの重要性等について学習を行った。

2. 小中連携による食育に向けた導入プログラムの実践と評価：住吉区内の小学校2校で、6年生を対象に中学生へ朝食習慣に関する導入学習を2または3回実施した。事前・事後調査の分析により朝食習慣の変化を評価した。結果、女子の朝食に関する知識について有意な改善がみられた。男子でも同様の傾向が確認できた。欠食率や態度に変化はみられなかったものの、児童は学習に前向きに取り組み、理解度が高く、学習後に朝食習慣を意識した者が多くみられた。

3. 地域連携食育ネットワークの強化：取組について、報告会において学校、行政等の地域ネットワーク内で共有および住吉区が実施した食育パネル展へ出展し、地域への発信を行った。いずれの取組も次年度対象を拡大して継続が予定されており、本取組は地域連携食育ネットワークの強化につながったと考える。

研究業績（学会発表）

- ・都市部中学生における朝食調理体験課題実施前後における朝食摂取状況と関連項目の解析、第68回日本栄養改善学会学術集会（2021）
- ・An evaluation of a dietary education program to reduce skipping breakfast among junior high school students in urban areas of Japan、The 8th Asian Congress of Dietetics（2022）